

大会名 Competition	第19回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-10	Year Month Day Time 2006 年 5 月 4 日 16 : 55
場 所 Place	能代市総合体育館



主審:Referee
片 寄 達 (宮城)
副審:Umpire
高 根 聡 (秋田)
テーブル・オフィシャル:Table officials
秋田県立能代高等学校

チーム A		チーム B															
能代工高	<table border="1"> <tr><td>37</td><td>1st</td><td>17</td></tr> <tr><td>31</td><td>2nd</td><td>10</td></tr> <tr><td>22</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>21</td><td>4th</td><td>14</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	37	1st	17	31	2nd	10	22	3rd	16	21	4th	14	OT			普通寺第一高
37	1st	17															
31	2nd	10															
22	3rd	16															
21	4th	14															
OT																	
111 ○		57 ●															

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	下山 竜良	CAP	5	1	1	0	1	4	×	黒田 恵太	CAP	3	0	1	1	2
5	×	満原 優樹		12	1	3	3	1	5	×	松林 弘祐		5	0	2	1	1
6	×	長谷川 技		0	0	0	0	0	6	×	赤坂 英彰		10	2	1	2	3
7	×	渡部 敬祐		18	6	0	0	1	7		本井 敏雄		-	-	-	-	-
8	×	西山 達哉		20	3	4	3	0	8	/	藤原 辰徳		9	0	4	1	0
9	/	高橋 健太郎		9	0	4	1	0	9	×	近井 恭平		17	0	7	3	2
10	/	遠藤 悠亮		10	0	4	2	3	10		高畑 三四郎		-	-	-	-	-
11	/	鈴木 啓介		6	0	3	0	4	11		徳井 毅		-	-	-	-	-
12	/	宮川 光		4	0	2	0	2	12	/	長谷川 悠貴		8	1	1	3	1
13	/	永須 亘		4	0	2	0	1	13	×	辻 健太		3	0	1	1	2
14	/	館山 健太		13	1	5	0	0	14		香川 貴洋		-	-	-	-	-
15	/	村上 永英		4	0	2	0	2	15	/	植松 諒一		2	0	1	0	0
16	/	高橋 陽		0	0	0	0	0				-	-	-	-	-	
17	/	熊谷 健		0	0	0	0	0				-	-	-	-	-	
18	/	石川 朝		6	0	3	0	1				-	-	-	-	-	
コーチ		加藤 三彦							コーチ		松岡 修						
Aコーチ		佐々木 信吾							Aコーチ		豊嶋 彩華						
合計				111	12	33	9	16	合計				57	3	18	12	11

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1Q能代工業は伝統のオールコートプレスからの2-1-2のゾーンディフェンス、普通寺は1-3-1のゾーンディフェンスで試合が始まる。普通寺は#9近井のジャンプシュート、#6赤坂の3Pシュートなどで得点すれば、能代工業は#8西山の個人技で反撃する。しばらく一進一退の攻防が続くが、ここから能代工業が抜け出す。#7渡部の連続3Pシュートが決まり、残り4:28のところでは22-12の能代工業が10点リードとなる。普通寺はここでタイムアウトを取るが、能代工業の流れは止められない。普通寺のミスも重なり、能代工業の怒濤の攻撃が続く。交代して出た#10遠藤のゴール下や#9大高の速攻などで37-17の能代工業の20点リードで第1Qは終了する。

第2Q普通寺はディフェンス3-2のゾーンディフェンスに切り換えてペースをつかもうとするが、逆に能代工業のオールコートプレスにひたひたになりミスを重ねてしまう。その間に能代工業は激しい攻撃を見せる。#10遠藤のリバウンドからのシュートや#8西山を起点とした速攻などで次々と得点を重ねていく。残り3:09に61-25と能代工業の大量リードとなったところで、普通寺はタイムアウトをとり流れを変えようとする。しかし能代工業の勢いは止まらない。#8西山の距離のある3Pシュートが終了ブザーと同時に決まるなど68-27と能代工業の41点リードで第2Qは終わる。

後半能代工業は最初から控えのメンバーで戦う余裕を見せる。能代工業は#9大高の速攻や個人技で得点すれば、普通寺は#9近井のゴール下や#12長谷川の速攻などで得点する。第3Q残り4:55に能代工業の期待の1年生#14館山の3Pシュートが決まったところで82-34となり、普通寺はタイムアウトを取る。それでも能代工業の攻撃のペースは変わらず、第3Qが終わり90-43とさらに能代工業が差を広げることとなる。

第4Qは普通寺#6赤坂の3Pシュートから始まる。能代工業も#13永須の速攻や#14館山の3Pシュートで反撃する。しばらく互角の戦いが続くが、残り4:20のところでは#14館山のジャンプシュートが決まり、能代工業はついに100点の大台にのせる。普通寺は#6赤坂のリープインプレーや#15植松のカットインなどで反撃するが、ここからも能代工業は走り続け、結局111-57と大量リードで試合は終了した。能代工業の